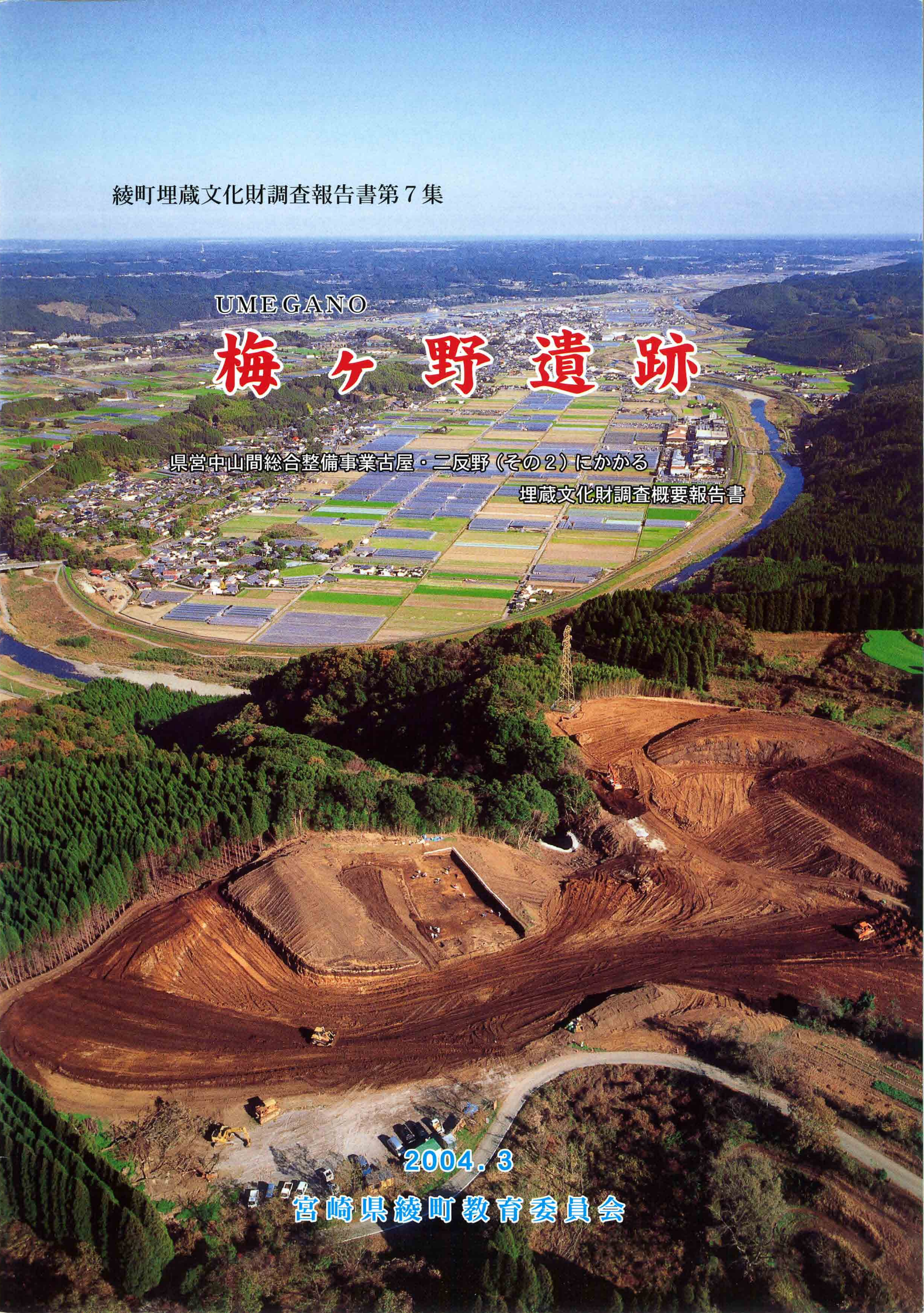


綾町埋蔵文化財調査報告書第７集

UMEGANO

梅ケ野遺跡

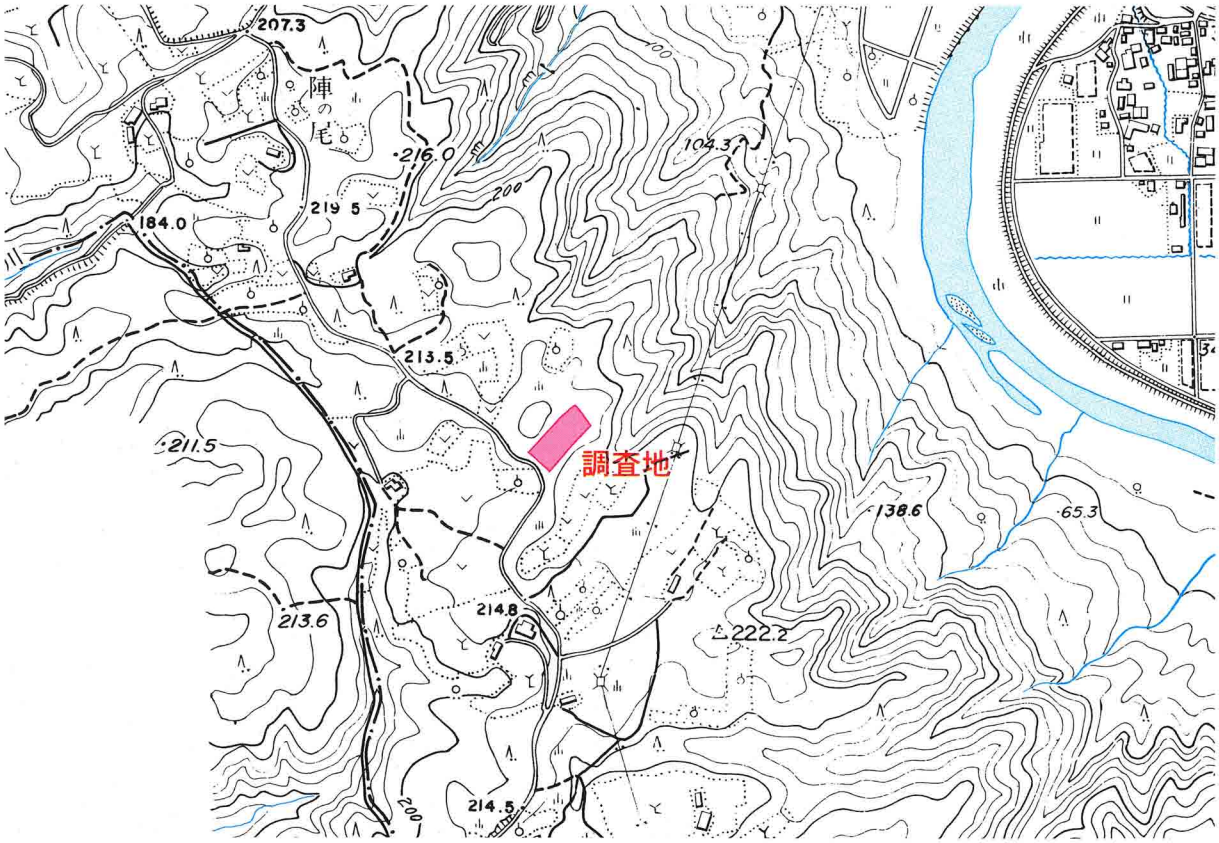
県営中山間総合整備事業古屋・二反野（その２）にかかる

埋蔵文化財調査概要報告書

2004．3

宮崎県綾町教育委員会

調査地位置図（1：50,000）



遺跡周辺地形図（1：10,000）

１．調査に至る経緯

平成13年度から行われている、綾町古屋・二反野地区の県営中山間総合整備事業に伴い、平成14年６月、７月に宮崎県文化課が試掘調査を行なったところ、事業地の一部に埋蔵文化財包蔵地の所在が確認された。その後、綾町教育委員会は宮崎県文化課が実施した試掘調査の結果を受けて、遺跡の取扱いについて宮崎県中部農林振興局と協議を行なったところ、事業設計上の理由により、やむを得ず削平されることになった部分において発掘調査を行ない記録保存することとなった。

調査は宮崎県中部農林振興局の委託を受けて綾町教育委員会が実施し、期間は平成15年10月６日から12月19日まで、調査面積は約1,182㎡である。

２．調査の体制

調査主体	宮崎県東諸県郡綾町教育委員会		
調査組織	綾町教育委員会	教育長	森山　喜代香
		社会教育課長	玉田　清人
		社会教育係長	蓮子　浩一
	庶務担当	社会教育係	井上　隆広
	調査担当	社会教育係	井上　隆広
	調査作業員	㈳綾町シルバー人材センター	
	調査支援業務	有限会社ジパングサーベイ	
		㈲スカイサーベイ九州	

３．遺跡の立地と歴史的環境

綾町は宮崎県のほぼ中央部、大淀川水系の綾南川・北川の合流点に位置し宮崎市との距離約20㎞に位置するところである。本遺跡は、綾南川南岸標高約220ｍの高位段丘礫層の台地上に位置している。調査区の周辺は、山林を切り開いた畑地造成などによる影響で旧地形を留めていない場所も多く、本遺跡も一部削平を受けた状況であった。

本遺跡の近隣には、平成７・８年度にかけて行われた遺跡詳細分布調査によって所在が確認されている陣之尾第２・３・４遺跡などがある。そのほかにもこの二反野原の台地上には、表採などのよって数多くの埋蔵文化財包蔵地の所在が確認されている。

４．調査の概要

本遺跡では、排土置場等の都合により調査区をＡ・Ｂ調査区の２区に分け、調査を行なった。

Ａ調査区については、小林軽石層上部まで重機により掘削し、その後人力により遺構検出をおこなったところ、土坑が15基、ピットが４基検出された。

Ｂ調査区については、二次アカホヤ層上部まで重機により掘削し、直上にて人力により遺構検出した結果、溝状の遺構や土坑１基、貝殻条痕文系土器破片の出土がみられた。再び重機にて小林軽石層までの掘削を行い、人力により遺構検出した結果、土坑８基、ピット１基が検出され、そのピットの埋土中から使用痕の残る石器が見付かった。また調査区全体を通して小林軽石層の上面にて風倒木による地層の横転部が検出された。

基本層序は以下の通りである。

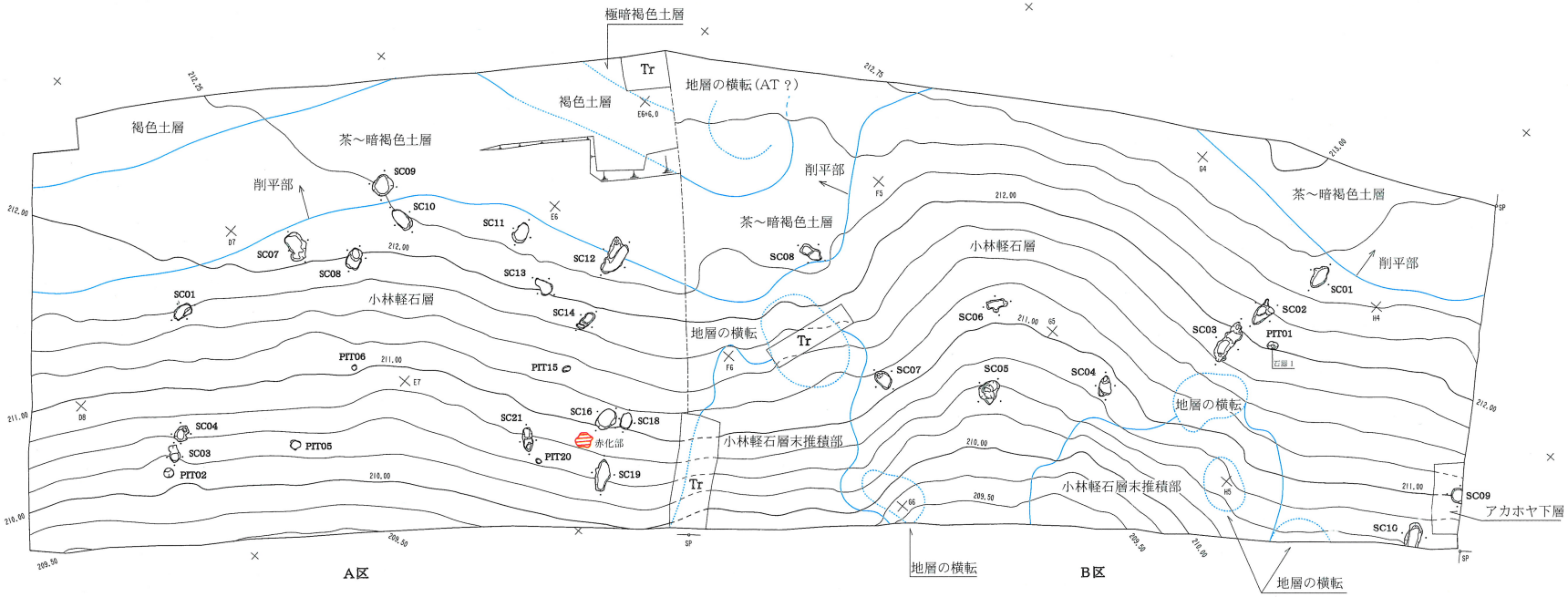
Ⅰ層	表土（耕作土）		２０ ～ ８０ ｃｍ
Ⅱ層	盛土（造成時盛土）		２５ ～ １００ｃｍ
Ⅲ層	黒色土	（Ｈｕｅ７．５ＹＲ １．７／１）	１５ ～ １１０ｃｍ
Ⅳ層	褐色土	（Ｈｕｅ７．５ＹＲ ４／６）	１０ ～ ７０ ｃｍ
Ⅴ層	明褐色土	（Ｈｕｅ７．５ＹＲ ５／８）	１０ ～ ４５ ｃｍ
Ⅵ層	黒褐色土	（Ｈｕｅ７．５ＹＲ ２／２）	１５ ～ ７５ ｃｍ
Ⅶ層	黒褐色土	（Ｈｕｅ７．５ＹＲ ３／２）	２０ ～ ３０ ｃｍ
Ⅷ層	暗褐色土	（Ｈｕｅ７．５ＹＲ ３／４）	４０ ｃｍ以上 （一部だけ）
Ⅹ層	黒褐色土	（Ｈｕｅ７．５ＹＲ ３／２）	４０～７０ ｃｍ （一部だけ）

Ａ調査区南側土層断面

Ｂ調査区南側土層断面

梅ヶ野遺跡　遺跡全体図

縮尺　1：300



調査地全景

調 査 地（調査前）

Ａ区小林軽石層上面検出状況（その１）

Ａ区小林軽石層上面検出状況（その２）

土坑半裁状況

土器出土状況

石器出土状況

綾町埋蔵文化財調査報告書第７集
梅ヶ野遺跡
県営中山間総合整備事業古屋・二反野（その２）に
かかる埋蔵文化財調査概要報告書
２００４年 ３月

編集・発行　綾町教育委員会
〒880-1303
宮崎県東諸県郡綾町大字南俣５４６－１
ＴＥＬ．0985-77-1183
印　　刷　有限会社 垣 原 印 刷
〒880-1101
宮崎県東諸県郡国富町大字本庄３９８４
ＴＥＬ．0985-75-2015